
公益社団法人 大阪府工業協会

平成29年度 事業計画書

自) 平成29年4月1日 ~ 至) 平成30年3月31日

いま世界経済は大きな変革のうねりの中にある。昨年、英国のEU離脱決定、米国のトランプ政権の誕生といった大きな変化が相次いで起こり、これまでの自由貿易、ボーダレス化の流れに逆行する自国保護主義が台頭してきたことで、今後、経済にどのような影響が及ぶのか予測のつかない状況にある。

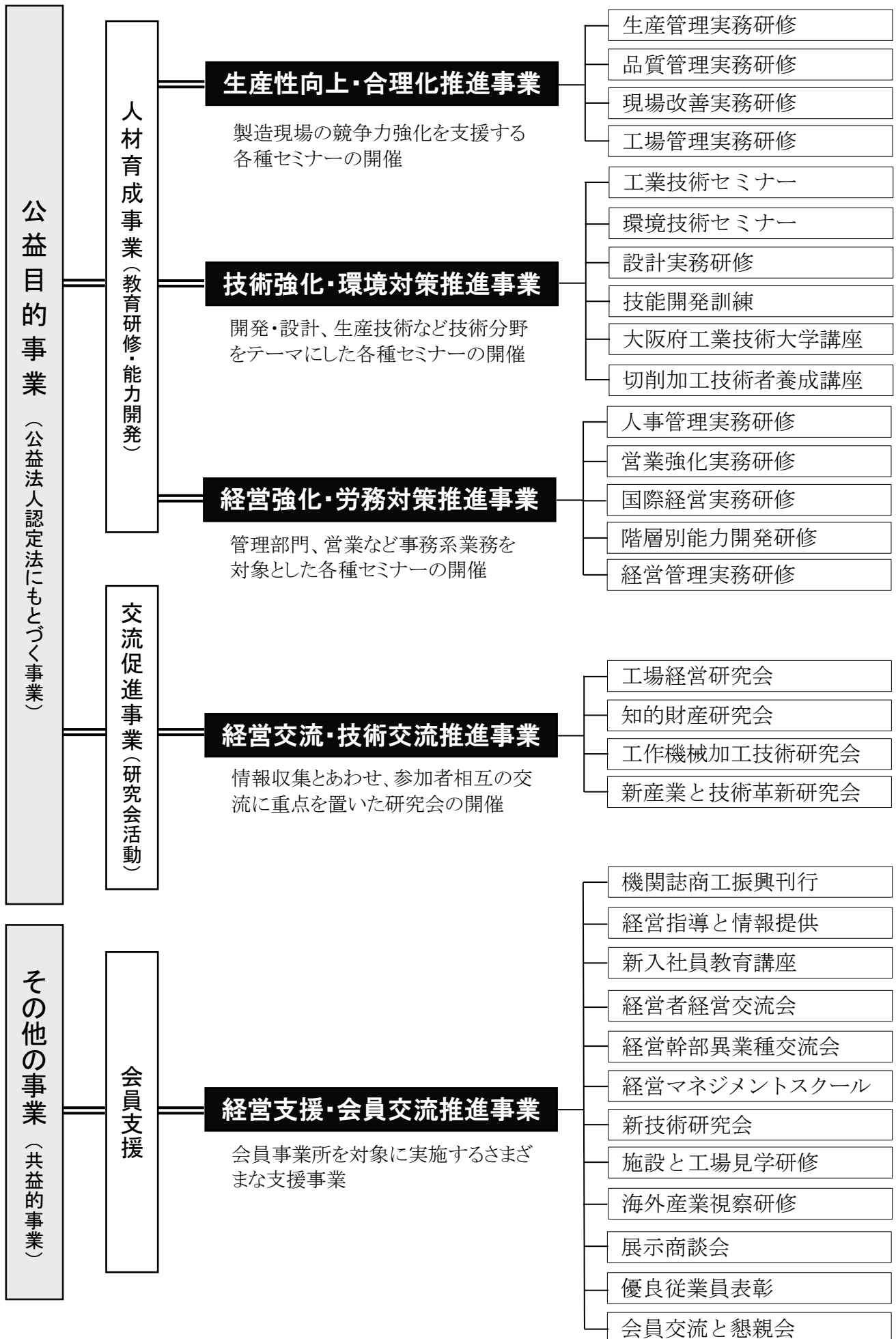
米国ではダウ平均株価が2万ドル超の状態が続き、利上げも行われるなど景気は拡大基調にあり、「アメリカファースト」を掲げる国内産業の強化策に期待が高まっているが、日本を含めアメリカへの輸出のウエイトが高い国にとっては、関税の問題など厳しい条件への対応を余儀なくされる懸念がある。

さらに、米国がTPP（環太平洋パートナーシップ協定）からの離脱を表明したことで、日本がアベノミクスで成長戦略の核と位置づけていた通商政策は転換を迫られることとなった。国内では5年目を迎えた安倍政権のもと、金融緩和と財政出動が功を奏し、株価や企業収益は改善されたものの、デフレ脱却や投資・消費の拡大には至っていない。とりわけ中小製造業にとって厳しい経営環境は変わらず、受注単価の下落、激しい価格競争に加え、短納期要請への対応にも苦慮し、さらに人材確保の難しさなど多くの課題を抱えている。

こうした状況下、当協会は、企業とくに中小製造業が活路を見出し、さらに持続的成長を果たすための支援策として、従来からの基幹事業である「人づくり」につながる研修事業をさらに活発に行い、製造業の基盤強化および新時代への対応を後押ししていく。もう一つの柱である研究会活動・企業間の交流事業についても、時代の変化に対応した情報をタイムリーに提供することに注力したい。

なかでも、昨年新たな取り組みとして始めた展示商談会や次世代の工場最新技術研究会など5事業をさらに発展・進化させる。また、協会の基盤事業である生産性向上や技術力強化のための研修については、基本に立ち返って内容を見直し、新たな視点も取り入れながら再構築を図る。具体的には以下に示す計画にもとづき、人材育成も交流事業も企業内の各階層、各職種に合ったきめ細やかな対応を行い、協会事業をさらに活発に推進していく方針である。

【公益社団法人大阪府工業協会 事業体系】



平成29年度 事業計画

1

生産性向上・合理化推進事業

国内需要の低迷、製品ライフサイクルの短期化、グローバルな価格競争、為替リスクなど、日本の製造業をとりまく環境は依然として厳しく、こうしたマイナス要因をいかにして乗り越えていくかが企業の命題である。そのための前提となるのが経営体質の強化、とりわけものづくりの競争力向上であると言える。高品質な製品づくりはもちろんのこと、生産性のさらなる向上、変種変量・短納期といった市場ニーズへの柔軟な対応など課題は山積している。

本事業では、現場力を高める管理・改善の実践手法、ならびにそれを担う人材の能力開発をテーマに、さまざまな切り口でセミナーや研修講座を展開。「人づくり」を通じて、製造業にとっての生命線ともいえる現場の基礎固めとさらなるレベルアップを強力に後押ししていく。

1-1 生産管理実務研修

売れるものを売れる時期に売れるだけ作るというのが企業の命題。そのために必要な生産管理手法（生産計画、工程管理、在庫管理、原価管理など）について学ぶ。

- 〔テーマ例〕
- ・生産管理ベーシックコース
 - ・生産統制のポイント
 - ・工程管理 実践トレーニング
 - ・小日程計画の立て方
 - ・外注の管理と監査の進め方
 - ・適正在庫量の決め方 など

1-2 品質管理実務研修

品質は企業の信頼や競争力を左右する重要なテーマである。不良品の発生を抑え、また、発生しても外に出さない仕組みづくりが不可欠であり、そのために必要な技術・手法を学ぶ。

- 〔テーマ例〕
- ・品質管理 実務研修
 - ・製造現場のポカミス対策
 - ・QC工程表と作業手順書の作り方
 - ・製造工程で進める品質づくり込み
 - ・検査業務の徹底見直し
 - ・ISO9001 内部監査員養成講座 など

1-3 現場改善実務研修

過剰な在庫、作業の手待ち、装置のチョコ停など、現場に潜在するムダを徹底的に排除し、生産性を高めることで製造原価を下げる。実践に活かすさまざまな改善手法を学ぶ。

- 〔テーマ例〕
- ・現場改善 実践研修コース
 - ・ムダの徹底排除 着眼点と進め方
 - ・原価低減の切り口
 - ・簡易自動化 考え方・進め方
 - ・リードタイム短縮の進め方
 - ・手元化の進め方 など

1-4 工場管理実務研修

工場の管理・改善に必要な実務テーマを相互に関連づけ、実務者やリーダークラス、管理者までのスキルアップ研修。幅広い知識を複合的・体系的に学ぶことで、実務力の向上を図る。

- 〔テーマ例〕
- ・多品種少量生産 管理運営の実務
 - ・製造第一線 管理監督者研修
 - ・工場長 強化合宿研修
 - ・現場力を高める多能工化の進め方
 - ・製造係長 高野山宿坊合宿研修
 - ・現場リーダー基礎力強化研修 など

かつて技術立国と呼ばれたわが国も、新興国の台頭によってその地位は相対的な低下を招いている。しかしながら携帯端末や光学機器などの電子関連製品、あるいは次世代自動車や航空機の中枢を担う機能部品の製造など、さまざまな分野で世界の最先端をリードする強みを有している。また、新素材の開発、微細・超精密加工など、高度な技術・技能、ノウハウを必要とする分野において日本の優位性はまだまだ盤石なものがある。

熾烈な国際競争のなか、他社との差別化を図るためには、そうした技術や技能にさらに磨きをかけるとともに、イノベーションにより新たな価値を創造していくことも必要である。

本事業では、製品の設計から、切削などの加工技術、機械の保全や環境技術にいたるまで、対象を細分化し、幅広いテーマを設定。また、多くの中小企業で課題となっている技能伝承の一助となるよう、民間企業の研修施設を利用した技能研修や工学系の基礎を学ぶ長期講座を開催するなど、技術水準の高度化、技術人材の育成に注力していく。

2-1 工業技術セミナー

機械や電気など生産技術に関する知識、金属や樹脂材料に関する知識、切削や溶接をはじめとする金属加工の知識など、あらゆる工業製品の製造に関わる技術テーマを網羅的に取りあげる。

- 〔テーマ例〕
- ・電気の基礎とシーケンス制御
 - ・樹脂系複合材料活用セミナー
 - ・金属加工技術（切削、溶接など）
 - ・金属部品の超音波洗浄
 - ・金属表面処理（塗装、熱処理など）
 - ・接着の基礎とトラブル対策 など

2-2 環境技術セミナー

企業の社会的責任として求められる環境負荷低減や温暖化防止への取り組み方を解説。あわせて知っておかなければならない環境関連の法規制についても取りあげる。

- 〔テーマ例〕
- ・生産現場のエネルギーコスト削減策
 - ・工場に必要な排水処理技術
 - ・工場エアの省エネ&トラブル対策
 - ・化学物質の適正管理
 - ・環境法規制 基礎知識と対応策
 - ・ISO14001 内部監査員養成講座 など

2-3 設計実務研修

設計は品質やコストを決定づけるため、それを担う技術者のスキルアップは欠かせない。また、図面はものづくりの共通言語であるため設計・製図に関してさまざまな研修を開催する。

- 〔テーマ例〕
- ・図面の基礎（読み方、寸法公差）
 - ・設計段階での原価見積り
 - ・検図チェックシートの作り方
 - ・自動機設計の勘どころ
 - ・設計者のための加工技術基礎知識
 - ・治具設計入門セミナー など

2-4 技能開発訓練

知識修得だけでなく実際の現場での技能を身につける研修を開催。研修施設を持つ企業と提携し、専門の指導員による技能訓練を行い現場作業者のレベルアップを図る。

- 〔テーマ例〕
- ・機械保全 実践力強化研修
 - ・からくり改善実習コース
 - ・油圧技術 基礎知識とメンテナンス
 - ・スプレーガン塗装作業実習
 - ・工場の電気設備における安全対策
 - ・空気圧技術 実践研修 など

1年間にわたる技術者育成研修。次代の技術力を担う若手・中堅技術者を対象に、機械系の工学基礎理論から応用技術知識までの修得、さらに高度な先端技術への理解を深めることを目的として、講義、実習、見学を行う。

昭和36年以来毎年継続して開講しており、これまでに2,500名を超える修了生を送り出してきた。就業と研修の両立のため、講義は夜間に実施。大学の機械系学部準じた基礎・専門科目をじっくり学ぶとともに、旋盤・溶接・CADなどの実技科目、実際のものづくり現場に触れる見学科目を組み合わせ、技術者としての総合力を養う。

今年度は、より実学指向を目指して講義内容を見直すとともに、企業の実務者が講師を務める特別講義科目では、最近のトピックテーマに再編。また、見学研修の訪問先再選定を行うなどプログラムの充実を図り、第57期として実施する。(4月開講～翌年3月修了。計130日間)

- 〔講義研修〕 材料力学、金属材料、機械要素、製図、加工技術など21科目
(大阪府立大学大学院工学研究科の教授を中心に講師を招聘)
特別講義として、知的財産、3Dプリンタ、生産革新など6科目
- 〔実技研修〕 NC旋盤、油空圧、溶接、CADなど7コースを設定(選択制)
(ポリテクセンター関西・兵庫の実習施設にて実施)
- 〔見学研修〕 ダイキン工業(株)、(株)西島製作所、(株)ジェイテクトなど10社を訪問

2-6 切削加工技術者養成講座

切削加工は機械部品の製作において必須の加工法である。しかし、最近では、工業高校や大学の機械系学部でさえ学ぶ機会が減っており、現場に配属されて初めて接するような状況にある。本講座では、切削加工技術者に必要な知識を体系的に把握・理解することを目的として夜間20回の講義、工具メーカーによる2回の特別講義、8回の実習、2回の工場見学を組み合わせた9か月間のプログラムを編成。実施にあたっては、大阪工業大学工学部の協力を得て、経験豊富な講師陣を迎えるとともに大学が保有する実習機を活用し、より実践の場で役立つ内容とする。

- 〔講義研修〕 切削基礎理論、切削工具、被削材の知識、最適加工条件など
10科目に加え、工具メーカーの技術担当者による実務講義(夜間に実施)
- 〔実技研修〕 旋盤、ボール盤、立フライス盤、NC加工、測定実習の5科目
(大阪工業大学ものづくりセンター〈モノラボ〉で実施)
- 〔見学研修〕 工作機械メーカーとしてDMG森精機(株)を
切削工具メーカーとして(株)ソリッドツールを訪問

企業の持続的発展のためには、限られた経営資源（ヒト・モノ・カネ）をいかに活用し、パフォーマンスを高めていくのが大きな課題である。日本の人口は減少の一途を辿り、国内需要の縮小は避けられず、労働力確保の難しさもこれから顕在化してくる。飽和状態にある市場では受注獲得に向けた競争もますます激しくなり、収益を確保していくには営業力強化とともに経営管理体制の充実も欠かせない。また、成長市場を求めて海外へ打って出ることも必要になってくる。

こうした経営上の課題に対処していく人材の育成、能力開発が本事業の目指すところである。

テーマは幅広く、経理および経営管理、人事労務管理、営業戦術、グローバル化対応、さらには従業員個々のスキルアップまでもが含まれる。個別の職務や階層に合わせた研修講座、セミナーを開催することにより、生き残りをかけて経営革新に取り組もうとする企業を支援していく。

3-1 人事管理実務研修

労働関係法令の理解を促し、各種手続き業務をはじめ、従業員の採用や人事考課、賃金、処遇など、人事労務に関するテーマを全般的に取り上げる。

- 〔テーマ例〕
- ・実務者のための事務手続き
 - ・面接トレーニング
 - ・事例で学ぶ 労務トラブル予防対策
 - ・海外勤務社員の保険と税務 など
 - ・大学新卒者 採用のテクニック

3-2 営業強化実務研修

基本的な営業マナーや商談・交渉スキルといったすべての営業社員に必要な能力と、管理職として組織をまとめるマネジメントスキルなど、階層ごとに求められる能力を習得する。

- 〔テーマ例〕
- ・営業の基本と営業スタイルの確立
 - ・営業管理職研修
 - ・第一線営業マン 基礎力強化研修
 - ・商談の進め方
 - ・営業マネージャー研修
 - ・技術営業のテクニック など

3-3 国際経営実務研修

事業のグローバル化対応のためのセミナーを開催。経営者層には意思決定や戦略立案につながるテーマを、実務者向けには貿易書類の作成、法律知識などのテーマを取り上げる。

- 〔テーマ例〕
- ・初任者のための貿易実務基礎
 - ・海外販路開拓の進め方とリスク対策
 - ・海外取引の英文メール
 - ・安全保障輸出管理
 - ・海外進出事業計画の立て方
 - ・ビジネス英語コース など

3-4 階層別能力開発研修

経営目標の達成に向けた各自の責任・役割の自覚を促すため、各階層に求められる実務知識・基本行動を整理する。立場に応じた職責を全うするための要請を演習やグループ討議を通じて指導する。

- 〔テーマ例〕
- ・部長・課長・係長・主任研修
 - ・若手が育つ職場づくり
 - ・課長の決断力
 - ・“怒り”の管理術 など
 - ・人財定着のチームづくり

3-5 経営管理実務研修

経営管理機能の強化を目指して、経営者・経営幹部・管理スタッフを対象に、具体的な実務課題を取り扱った中長期の研修を実施する。

- [テーマ例]
- ・初めて学ぶ経理
 - ・社長が知っておくべき経理の基礎
 - ・人事部長のための人事労務管理実務
 - ・一日で学ぶ 年末調整の実務 など
 - ・工場管理者の原価計算マスターコース

本事業は、新しい知識・情報を得るだけでなく、参加者相互の交流および連携の促進を図る研究活動を主体としたもので、研修などの人材育成と並ぶ協会事業の大きな柱である。

企業活動にあたって必要となるさまざまな経営課題、例えば知的財産、海外戦略、環境・省エネ、あるいは製造業では欠かせない生産技術や加工技術、また話題の新しい技術など、ユニークなテーマを設けた研究会を多数開催。中長期にわたり1つのテーマに沿って定例会合を開き、講義一辺倒ではなく、参加者間の意見交換や情報交流を盛り込んで相互研鑽を図る。

異業種・異分野の多彩な企業、かつ規模の大小を問わずさまざまな企業が集うのは、当協会ならではの特色である。その相互理解を促し、そこから新たなビジネスの芽を育むことも産業団体としての使命であると考えており、本事業は今後さらに充実させていく。

4-1 工場経営研究会

ものづくり企業の経営幹部・工場責任者が一同に会し、ディスカッションや情報交換により相互研鑽を図る。企業規模や事業内容が違っていても、製造業の経営の一翼を担う者として共通する課題を取り上げ、全18回の研究会を開催。各回のテーマは、生産管理や改善手法など向上に不可欠な実務知識から、財務・法務問題、人事労務、人材育成までを幅広く網羅している。将来にわたって事業を継続させていくための先導者として、経営感覚を身につけるとともに、経営の視点から工場全体を統括・マネジメントできる力を高めていく。

4-2 知的財産研究会

企業における法務や知的財産担当者、研究・開発部門スタッフ、および弁護士・弁理士などの専門家を対象に全10回の研究会を開催。運営にあたって大阪工業大学知的財産学部と連携し、これからの知財保護・活用戦略を考えるさまざまなテーマを取り上げる。今年度は、昨年の参加者アンケートで要望が多かった、企業の知財活動の実際例、海外展開にまつわる知財面での攻めと守りの戦術、制度改定に伴う実務対応といった、喫緊の課題を掘り下げていき、情報収集のみならず参加者間の意見交換を行う。

4-3 工作機械加工技術研究会

機械加工はものづくりの基盤技術であり、日本が世界に誇れる分野である。最近の工作機械は、超精密加工、高速化、省エネ性などと時代の要請に合わせて進化を続けており、国際的な企業間競争を勝ち抜くために、より一層技術レベルの向上が図られている。ユーザーにとっても、こうした先端技術を取り入れることが競争力を高めることにつながるのは確かで、今後の技術動向に注目しておく必要がある。本研究会では、機械加工、工作機械の最新情報を得るため、機械メーカーの見学や先進事例を紹介する講演会を開催する。

4-4 新産業と技術革新研究会

変化の激しい時代には、自身の目と耳で的確な情報を収集することが欠かせない。そこで、新たな市場領域の開拓、異分野でのビジネスチャンスの獲得、あるいは生産システムの再構築など、事業の新展開につながるヒントを得るため、以下に挙げるようなさまざまな研究会を開催。個々の企業ではなかなか得られない情報に触れる機会を提供する。

「優れた中堅企業 ものづくり経営研究会」

特徴的な技術を持つ、あるいはニッチ市場で強みを発揮するなど、個性豊かで活力のある中堅・中小企業を訪問。実際のものづくり現場を見学するとともに、その会社のトップと意見交換を行うことで、企業経営の考え方や市場戦略に関するヒントを得る。

「生産技術レベルアップ研究会」

生産性向上のヒントやアイデアを掴むため、創意工夫による優れた生産技術力を有する工場を訪問。絶え間ない改善活動により生産の効率化と品質の向上、人と組織の活力アップ、技能伝承や人材育成などに成果を上げている、実際の取り組み事例に学ぶ。

「進化する次世代の工場 最新技術研究会」

ものづくりは今、世界的に大きな変革の時を迎えている。先進企業では、それぞれのニーズに合う一品一様の製品を大量生産と同等レベルの効率やコストで作る生産方式へと進化しつつあり、オンデマンド生産、パーソナライズ化、スマートファクトリー化などといったキーワードで語られている。これらのものづくりを可能とするのは、最新ロボット技術やFAシステム、デジタル機器などに代表される最新テクノロジーである。本研究会では、次世代の工場をテーマに、生産現場のIT化・FA化、ロボット活用などの事例を紹介する。

「3Dプリンタ実践活用研究会」

「ものづくりの世界を変える」「誰でもメーカーになれる」などと話題の3Dプリンタ。これまでの常識では考えられなかった用途や実際の製品に利用され始め、中小企業においても活用する動きが広がっている。本研究会では、3Dプリンタに関わる最新情報、およびさまざまな導入事例を取り上げ、3Dプリンタを導入するにあたってのヒント、活用するためのノウハウを獲得する。

「最新 自動車テクノロジー研究会」

自動運転をはじめ、燃料電池やプラグインハイブリッドなどパワーデバイスの多様化、安全性能向上といった進化が続く、自動車技術。これらの最新動向を見る、聴くことによって、市場参入や事業展開のヒントを得ることを目的に、自動車メーカー、サプライヤーから技術者を招いての講演を行うほか、実際の工場を訪問・見学する。

「医療機器産業参入研究会」

高齢化や健康志向の高まりにより、健康・医療・介護分野には多様なニーズが潜在している。それをビジネスに結び付けるにはどうするか。そのヒントを得るための情報収集の場を設ける。川下メーカーのニーズを探るとともに、市場参入した中小企業の事例から学ぶ。

2年目となる今年度は、参加者の要望が多かった、サプライヤーとして市場参入するための接点づくりにつながる、大手医療機器メーカーによるニーズ紹介に重点を置く。

当協会は約 1,200 社からなる会員組織を有し、大企業から小規模企業まで、また機械、金属、電機、化学、食品、あるいは卸売業といったように、規模や業種の異なる多様な事業所が参画していることが大きな特色である。こうした会員事業所間の有機的な連携と協調を促進するため、経営支援および会員交流に関わる事業を積極的に展開していく。

5-1 機関誌商工振興刊行

大阪府商工労働部監修

会員事業所へのインタビュー記事や、専門家による解説記事、行政からの広報などを収録し、毎月 1 回発行。また、会員事業所の創業の歴史や創業者の逸話などを紹介する「創業者偉人伝」やものづくりにまつわる専門用語を分かりやすく解説する「ものづくりワードQ&A」といった協会ならではの企画記事を掲載する。

5-2 経営指導と情報広報

会員事業所からの経営上、技術上の相談に応え、情報提供や専門家の紹介を行うほか、社内研修の要望に対しては、ニーズに合ったカリキュラムの編成から講師派遣までをサポート。従業員の自己啓発・自主活動に対しては、通信教育講座および研修用DVD教材の貸し出し等により対応する。さらに、会員事業所を対象とした参加無料の講演会を開催し、時宜に応じたトピックス的なテーマを取り上げ、経営に役立つ情報を発信していく。

5-3 新入社員教育講座

新入社員に社会人としての自覚を促すとともに、働くうえで必要な基本行動・知識を修得させる。総合基礎教育のほか、職種別の導入教育やビジネスマナー研修を実施。さらに、機械金属・プラスチックメーカーに的を絞った専門知識を修得できる研修、規律や礼儀を身につけさせる禅寺合宿研修など、多様なニーズに合わせたカリキュラムを提供する。

5-4 経営者経営交流会

経営者として経済の状況を見極め自社の明日を考察する機会として、あわせて経営者相互の交流の機会として、「経営セミナー」を年 2 回開催。特色ある事業展開や商品戦略で注目を集める企業の経営者を招聘しての講演を行い、あわせて講演者・参加者の交流懇親会も開催する。

5-5 経営幹部異業種交流会

会員事業所の工場幹部の相互交流の場として、ものづくりにおける取り組みについての講演やパネルディスカッションを行う「工場長大会」を昨年度に引き続き第 2 回として実施する。また、新企画として、企業における人づくりと組織の活力向上をテーマとした「人材活性化フォーラム」(仮称)、若手経営者の交流・研鑽の場とする「朝活」(仮称)を開催する。

5-6 経営マネジメントスクール

中堅・中小企業の若手管理職、管理職候補者を対象に、マネジメントの原理・原則を共に学ぶ場として開催。経営の持続的発展に貢献し、組織の目標を達成していくために必要な戦略的思考や分析能力、あるいは計画立案力、問題解決力、チームオペレーションといった、管理職としての本質的なスキルを高めることを目的とする。

5-7 新技術研究会

需要の変動に対応し、変種変量生産を機敏にこなす工場。オンリーワン技術で強みを発揮する工場。海外生産拠点のマザー機能を発揮する工場。など国内生産で強い競争力を持つ工場はまだ数多く存在し、日本のものづくりの底力を体現している。こうしたメーカーの現場見学と技術講演を行い、独自のコンセプトを見る・聴く・学ぶことによって最新の技術動向を掴み、今後の経営や工場運営に役立つ情報を吸収する。

5-8 施設と工場見学研修

異分野の現場に学ぶ見学研修を積極的に実施し、経営者あるいは技術者の情報収集ニーズに応えていく。三現主義という言葉があるように、机上の論理ではなく、「現場」で「現物」を観察し「現実」を認識したうえで問題解決を図ることが重要である。とくに、ものづくりにおいては現場から学ぶことが多く、生産性の向上、製品の改良、新製品開発のヒントも現場でこそ見出すことができる。工場以外に、研究機関や物流施設などへも訪問する。

5-9 海外産業視察研修

日本企業の海外事業所や現地メーカーを訪問し、実際の姿を見聞、学ぶ機会を提供する。大手メーカーの国内回帰が進む状況においても、市場のグローバル化は無視することはできない。国外の経済情勢は刻々と変化しており、「百聞は一見に如かず」の言葉どおり、現地を訪れることには大きな意義がある。海外のものづくり現場の実地見学および現地法人責任者とのディスカッションを通して、マスメディアでは得られない活きた情報を掴む。

5-10 展示商談会

会員事業所と大手メーカーとをつなぐマッチング事業として、会員事業所が持つ技術・製品を直接アピールする「新技術・新工法展示商談会」を実施。今年度は、マツダ(株)の本社講堂を会場に、50ブース程度を設けた展示会を開催し、同社の調達・技術担当者や関連サプライヤーへの販路開拓を支援する。

5-11 優良従業員表彰

会員事業所における労使関係の安定と従業員の勤労意識増進を図るため、昭和37年より毎年実施している「優良従業員表彰」。永年勤続かつ他の模範となる従業員として事業主から推薦を受けた者を選考し、会長名による表彰を行う。

5-12 会員交流と懇親会

会員企業経営者・事業主の相互理解と親睦を深め、連携・協力が円滑に図られるよう、交流・懇親の場を設ける。

*新春年賀交歓会 *会員交流ゴルフコンペ